

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	11
1. 理念の共有		2
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を実践するための体制		3
5. 人材の育成と支援		2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		6
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		11
1. その人らしい暮らしの支援		9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		30

事業所番号	4670600115
法人名	社会福祉法人 桜仁会
事業所名	グループホーム 風の詩
訪問調査日	平成22年3月9日
評価確定日	平成22年4月9日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4670600115
法人名	社会福祉法人 桜仁会
事業所名	グループホーム 風の詩
所在地	阿久根市赤瀬川276-1 (電 話) 0996-64-6211
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号南光ビル303号
訪問調査日	平成22年3月9日

【情報提供票より】(平成22年2月24日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成13年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤	7人, 非常勤 2人, 常勤換算 9人

(2)建物概要

建物構造	木造平屋建て		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	22,500 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(2月24日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名		
要介護3	2 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.4 歳	最低	79 歳	最高	93 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 昴和会 内山病院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは海を一望できる高台に位置し、同一法人の特別養護老人ホームとデイサービスセンターが隣接している。建物には中庭と広いベランダがあり、居間には明るい光が差し込んでいる。関連施設や協力病院、訪問看護ステーションなどの連携により、緊急時の対応や健康管理面の支援体制が整っており、利用者およびご家族は安心して生活することができる。職員は認知症介護を熟知しており、個別性を捉えた支援にチームワークを發揮し、明るい雰囲気で行々のケアに取り組んでいる。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	理念について全職員で話し合い、新たに「地域との交流を深める」と掲げ、地域の生き生きサロンへの参加やボランティアの受け入れなど、積極的な取り組みがなされている。運営推進会議は2ヶ月に1回の開催を事業計画に盛り込み、定期的に開催している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者および職員は、評価を実施する意義を理解している。指摘された課題は全員で検討し、改善に向けて取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、ご家族代表および地域住民代表、市の担当者などが出席して2ヶ月に1回開催されている。ホームの運営状況や行事内容、評価への取り組みなどを報告し、それぞれの立場からの意見や助言、情報などを提供してもらい、サービスの質向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	苦情受付冊子があり、苦情処理委員会も設置され、その旨を掲示している。家族会やご家族が来訪された際に、意見や要望を出してもらうように働きかけている。出された意見や要望はケース会議で検討し、必要に応じて運営者へ報告してサービス向上に活かしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の生き生きサロンや市の催物、および併設施設の行事等に参加したり、ボランティアを受け入れるなどして、地域との交流に努めている。さらに、家族会で地域との関わりの重要性を説明して、外出や外泊時には近隣の方々と交流してもらうなど、ご家族の協力も得ている。

2. 評価結果詳細

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの役割について職員全員で話し合い、基本理念に「地域との交流を深める」を掲げ、地域との関係性を盛り込んだ理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関や職員室に掲示すると共に、毎月のケース会議で理念について掘り下げて話し合っている。さらに、日々のケアを振り返りながら理念を共有し、実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の生き生きサロンや市の催物、および併設施設の行事等に参加したり、ボランティアを受け入れるなどして、地域との交流に努めている。さらに、家族会で地域との関わりの重要性を説明して、外出や外泊時には近隣の方々と交流してもらおうなど、ご家族の協力も得ている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者および職員は、評価を実施する意義を理解している。指摘された課題は全員で検討し、改善に向けて取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、ご家族代表および地域住民代表、市の担当者などが出席して2ヶ月に1回開催されている。ホームの運営状況や行事内容、評価への取り組みなどを報告し、それぞれの立場からの意見や助言、情報などを提供してもらい、サービスの質向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは、運営推進会議以外にも運営やサービス課題について話し合う機会が多く、市のアンケート調査を受け入れるなど、協力関係を築いている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	管理者は毎月連絡事項や預かり金出納状況などの報告書を作成し、担当職員は利用者それぞれの暮らしぶりや健康状態を記載してご家族に送付している。さらに、「風の詩お便り」を3ヶ月に1回発行し、ホームでの出来事を詳細に報告している。職員の異動については、面会時や家族会で報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付冊子があり、苦情処理委員会も設置され、その旨を掲示している。家族会やご家族が来訪された際に、意見や要望を出してもらうように働きかけている。出された意見や要望はケース会議で検討し、必要に応じて運営者へ報告してサービス向上に活かしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の異動は最小限に抑え、職員と利用者およびご家族との馴染みの関係を重視したケアを心がけている。異動がある場合は利用者には不安を与えないように、職員全員で配慮しながらケアを行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画を作成して、毎月勉強会を開催しているほか、法人内研修および外部研修を受講する機会も多い。さらに、新任年間研修計画もあり、習熟度を考慮し、段階に応じて育成する取り組みがなされている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム協議会に加入しており、全職員が研修や交流会に参加している。近隣のグループホームとの交流もあり、困難事例の相談や情報交換を通じて職員の意識を高め、サービスの質向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にご家族と一緒にホームを見学してもらい、職員や利用者および場の雰囲気に馴染めるように工夫している。見学に来られない場合には、管理者が既に入居中の利用者と共に自宅を訪問し、不安の解消や顔馴染みの関係作りを行っている。入居後は、ご家族や関わりのある人々に定期的に訪問や電話をしてもらうなどの支援を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の関わりの中で、介護される一方の立場に置かず、残存能力を発揮できるような支援を行っている。調理や唄、踊りなどの学びを大切にしながら、利用者に関わった役割を担ってもらい、共にねざらい分かち合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族からの情報や日々の生活の様子から、利用者の思いや暮らし方の希望を把握するよう努め、困難な場合は本人の表情や言動、職員の気づきなどから判断して本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントを基に、利用者およびご家族の要望を取り入れながら、かかりつけ医や訪問看護師、職員などの意見やアイデアを取り入れた介護計画を作成している。作成された計画はご家族に報告すると共に、全職員で共有している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎にモニタリングを行っており、状態の変化が生じた場合はニーズに合わせた新たな介護計画が作成される。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制が整っており、体調不良時は適切な対応ができる仕組みがある。利用者およびご家族の要望に応じて、通院介助や外出、外泊、個別的な買い物支援などを行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、かかりつけ医を協力病院へ変更してもらうことについて、利用者およびご家族に説明し、納得の上で変更していただいている。協力病院からの訪問診療が月2回、看護師の訪問が週1回行われており、受診結果はその都度ご家族へ報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期における対応指針を定め、入居時に本人およびご家族に説明し同意を得ているが、その後は特に話し合いの機会は持たれていない。	○	状況に変化がある場合は、その都度本人およびご家族、かかりつけ医や看護師、職員などの関係者間で話し合い、意思確認の上で方針を共有していただきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者および職員は、プライバシー保護や個人情報漏洩防止の重要性について理解している。利用者との関わりの中で、一人ひとりの自尊心を大切にされた声かけや対応を行っており、プライバシーについてはケア会議で常に話し合っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事とおやつの時間だけは決まっており、利用者のペースに合わせた支援を行うよう努めているが充分とは言えない。	○	業務のスケジュールを優先することなく、一人ひとりの状態や生活習慣等を大切に、できるだけ利用者の希望に添った柔軟な支援ができるように努力していただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	基本の献立はあるが、季節の食材を取り入れたり、利用者が希望するメニューになることもある。盛り付けや片付けなどを、利用者と職員と一緒に会話しながら楽しそうに行っている。食事中は馴染みの音楽を流し、職員も同じテーブルを囲み和やかな雰囲気の中で食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日曜日以外は、毎日入浴できるように準備している。基本的に週3回の入浴支援を行っており、足浴および陰部洗浄は毎日行い、清潔を保ち快適に過ごせるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理や草取り、洗濯など、利用者の生活歴や特技を活かした様々な役割や楽しみ事の支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望や天候に応じて、買い物やドライブ、散歩などに出かけている。広々としたベランダを利用して外気浴を兼ねた茶話会や昼食会を楽しむなど、なるべく屋内に閉じこもらないように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関、居室共に施錠することなく開放している。玄関にはチャイムが設置されており、外出される場合は職員と一緒に散歩するなど、自由に出入りできるように取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力の下、年2回、夜間想定を含めて避難訓練を行っている。関連施設からも協力を得られる体制にある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は関連施設の管理栄養士が作成している。食事摂取量はチェック表に記録しており、摂取能力も把握されて一人ひとりに応じた食事形態となっている。水分量はケース記録に時間毎に記録し、不足気味の場合は時間をずらして補給している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物の真ん中に中庭があり、居間や食堂は明るく自然の光に恵まれている。壁には利用者が作成された大きな貼り絵や塗り絵が掲示され、廊下には折々の行事の写真を貼るなど、季節を感じることができる。食堂から続く台所からは料理の匂いや音が聞こえ、生活感の漂う心地良い空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドやタンス、椅子、洗面台などは備え付けとなっている。テレビや小物、ご家族の写真、位牌など利用者の馴染みの物が多く持ち込まれ、それぞれに個性ある居室づくりがなされている。		